

## 離情別緒 寄語扶桑

日本二胡振興会の招きで、山々に紅葉が一杯の爽やかな金秋の季節に東京オペラシティで日本全国各地からの八十八名の二胡愛好家と二十数名のプロの演奏家が催した「[二胡縁]NPO日本二胡振興会記念コンサート in 東京 2005」に参加し、その後仙台と大阪での「関恵芬と中国民族楽器コンサート in 仙台 2005」、「関恵芬と中国民族楽器コンサート in 大阪 2005」計三会場のコンサートに出演し、感慨無量で、感触も多いです。

「二胡縁」コンサートの成功は日本で二胡が、個々人バラバラの状態はすでに終わった証で、良い雰囲気が出来て、一つ事業になっている訳です。このコンサートは中日両国優秀な二胡演奏家が出会い、手を組んで、老若問わず相互に協力し、司会者でさえ日本のステージで大人気がある現役の二胡演奏家で、二胡の縁をかり、二胡の情を示すと言えるでしょう。初めの中国の「喜洋洋」と日本の「見上げてごらん夜の星を」の二曲は北海道から沖縄までの八十八名の二胡愛好家がステージは勿論のこと、舞台の奥の二階にも多くの愛好家が立ち演奏し、場面が雄大で、人々に激動させました。

「二胡縁」コンサートの成功は民族音楽先駆者劉天華先生「音楽は庶民の家まで届くべき」の精神を展示し、彼の「中国民族音楽は世界のレベルに並べるべき」の理想を体現しました。中日両国芸術家の高い水準の演奏により、劉天華先生の生前の願いを実践し、天国の劉天華先生への慰霊でもあります。

「二胡縁」コンサートの成功は二胡という楽器が僅かの十数年間、日本でブームが起き、少しずつ普及するようになり、中日両国の二胡演奏家と教育家の長年の努力と汗流しの結晶で、人々に驚きながら、奮起させます。日本二胡振興会名誉会長として日本での識者が国家、民族、文化と歴史の違いを乗り越え、二胡の振興のために共に努力し、二胡事業の発展に考え、二胡事業の進歩に行動するように熱望しております。

「紅杏出牆外、東移隣土栽。芬芳淵故里、音韻融異彩。」日本の二胡事業はより日に日に向上発展し、より繁栄するようにお祈り致します。

関恵芬

2005年11月29日

日本成田国際空港にて